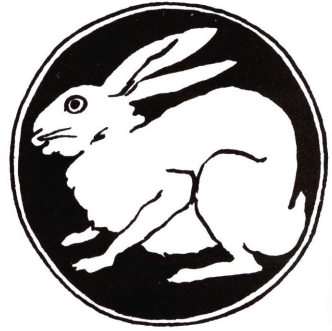


婦人子ども



大正四年五月十日

第十五卷  
第五號



フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

第十五卷第五號目次

幼兒教育雜感

下田 次郎

「ピップ」の話

岡田 みつ

つとむさん

狸 園

グロースの遊戯論

倉 橋 生

雜 錄

フレーベル追懷錄

本誌定價

一冊郵稅共金拾壹錢 六冊前金郵稅共六拾錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々  
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正四年五月五日印刷  
大正四年五月十日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三  
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四番地

印刷者 井 登  
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場  
東京市小石川區久堅町七十四番地

發行所 フレーベル會

顧問 高島平三郎先生

# モドリ

此の月刊「繪ばなし」は幼い女の子にも男の子にも誠に良いお友達である。さし繪の綺麗な事と片假名にて記事の教育的なるとは讀んで面白く大に爲になる家庭向の雑誌なり  
◎子供を愛する家庭にはなくてはならぬ讀物なり

定價一冊金十錢郵税 最寄書店になくば  
毎月一回 五厘六册郵税共金五 本社へ御申込あれ  
一日發行 十八錢十二册 郵税 御注文は振替貯金  
共金一圓十錢(前金) ならば尤も便利也

●郵便切手代用一割増●

東京小石川林町五七  
振替東京二七九六三

コ  
ド  
モ  
社

幹主子とも仁羽

# 子之友

婦人之友社が年來の宿志によつて、昨年四月から出して居ります十分教育的なる子供雑誌で御座います記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるゝ御家庭におすゝめ致します。

定冊價 十一錢半 郵税 六錢 婦人友社 東振替 京一六〇番 谷

# フレイベル 雜感

東京女子高等師範學校教授文學士

下 田 次 郎

(フレイベル紀念日講演大要)

今日は幼稚園の開祖フレイベル氏の誕生會であります、私に何かお話しをせよとの事で御座います、私は昨年の暮から病氣をしまして未だ健康が十分ではありませんので、別に研究もせずには思ひついた事だけをお話したいと思ひます。

一體人間の身體は、皆さんは御承知の通り下等動物から進化して來たものであります、獨逸のエナ大學の動物學の教授ヘッケルといふ老先生は、人體の諸機關の系統を研究して「生物學上より見たる教育」といふ書物をかゝれました。吾々の身體は下等からだん／＼に仕立てあげられて來たもので、決して一時に出來上つたものでありません。それで教育も其發達の順序にしたがつて施さなければなりません。筋肉でも基礎的のものゝ附加的

のものとがあります。胴體や手足や首の筋肉は根本的のもので、手足の指や舌、顔面の筋肉は附加的のものであります根本的の筋肉は之を特別に教育しなくても使用する事が出來ます、車夫などは此根本筋肉を資本として生活してゆくのです、附加的筋肉は之を教育して手工をやらせたり技藝をさせたりするのです。發達するものも此根本筋肉から先きに發達して次に附加筋肉が發達します、衰へる時は細かい附加筋肉から衰へて漸次大きな筋肉が衰へて來ます。子供から大人になる時もまづ大きな筋肉から發達して次に附加筋肉が發達します。それで小さい時はなるべく此根本筋肉の發達を十分ならしめるやうに注意しなくてはなりません、即ち飛んだりはねたりする運動をさせる

がよろしい、それはあんまりあら／＼しいから、も少しおとなしくしなくてはなど云つて根こんのつむ仕事をさせたりするのは發達の順序にそむく事になります。始めに技藝などを教へて細かい筋肉の發達を心がけるなどは砂の上に家を築くやうなもので危険な事です。神經衰弱を起したり或は變てこな早熟者を仕立てあげる事になります。之れは子供の虐待であります。女の子はをとなしくせよと云つて其男兒と同じに持つて居る發動性をおさへつけるのは甚だよろしくありません。小學校の女生徒の日記を見ましたら、飛鳥山へ遠足に行つてあの傾斜になつて居る芝草の上をころがつた時のおもしろさは忘れられないとありました。此時代は女の子も男の子と同じく荒らい運動がおもしろいのであるからなるべく運動を自由にさせてやりたいものです、荒らつぽい事は女にあるまじき事だからなど、云つて、あまり小さい時から出来上つた女をこしらへるなどは感心した話でありま

せん。男女ともどうか適當の運動を獎勵したいものであります。日本婦人の體格も五十年前に比べるとよほど發達して來たらしと思はれますが之はひとへに學校で獎勵する體育の賜物でありませう。

日本橋の目ぬきの大通の商店には後妻が多いと聞いて居りますが、さういふ處のおかみさんは年中日の目を拜まないで箱入で育てられて箱入りで暮して居る者だから發達が不十分であつたり體質が虚弱であつたりして、つひ夭死する結果だらうと思はれます。英國では「純粹のロンドンツ子同志が五代つゞいて結婚したらロンドンは滅びてしまふであらう」と云はれて居るさうですが同じ事が東京でも云へはしないかと思ひます、田舎の新らしい血が混るからロンドンでも東京も無事で居るのせう。女子の體格が進んで來たといふ事は女子教育の與へた最大なる利益であらうと思ひます。

子供は身體の發達につれて次第に玩具の好みも

違つて来るやうです。而して其好む玩具が、好む時期に最有効なのであります。鞠を持ちたがる時は最鞠が必要の時なのです。その時期を過ぎれば鞠はおもしろくなります。羽子板のほしい時も矢張り同じ事です。自然に好くやうな時に好くものを與へて其玩具の効力を失はせぬやうにしたいものです。遊ぶといふ事は人間の特色であつて、人間ほど遊ぶものはない、獸類などは遊んでも遊ぶ時期が極短かい、なまけものといふけものは木の技にぶらさがつて居るだけで決して遊ばない。之に反して人間は二十年乃至三十年親の脛をかちつて遊ぶのです。そして特に子供はその遊んで居る間に秩序はないが、身體精神共に其發達を遂げる事になるのです。故に幼稚園などではなるべく此遊びを主として自然に身體の發育をはかるやうにありたいものです、あまり物珍らしく學科らしくしたくない。restless (休む間なし)といふ事は子供の特色でありますから、じつとして居るやうな

は變體なのであります。式場などにはいつて居ても、後をむいたり横をむいたり始終そわ／＼して居ますが、あれ以上靜にさせるのは無理なのです。あれだけでもよくして居ると思ふ位です。西洋でもをとなくしつづけるといふ事は中世時代に於ては理想でありまして、靜にさせる爲めに随分手痛い體罰などを與へたものです。殊に女子には沈鬱的になるほどのをとなしさを強いたものです。然るにルーソーが出て來て、教育の自然主義を稱へて、子供は自由に遊ばせなくてはならぬ。なるべく放任して育てなくてはならぬ、さうして居る中に追々に心身を鍛鍊してゆくのがよい、そして書物は十二才乃至十五才になつた時ロビンソンクルソーを讀ませるがよいと唱道しました特に書物をロビンソンクルソーと定めたのは、其主人公が無人島に漂流して、單獨で生活の材料をとゝへて、獨立獨行的にやつて來たその精神を養はせる爲に最初の讀み物に之を撰んだのであります。

ルーソーは子供の早熟を非常に恐れて自然の發達を遂げしむる事の大切なるを極力道破した。之れは中世の教育主義に對しての大反對でありまして政治の根本的革新と共に不朽の大功蹟であります。然しながらルーソーは教育者として實に不完全な人でありました。新しい教育説の先驅者として尊いので實行者としては不適任の人でありました、此主義を躬賤實行したのはフレーベル其人であります。フレーベルと云ふ人は常に森林などを散歩して默想に耽ける人であつたさうです。始めは建築師であつたのですが、どうかした調子にその免許狀を紛失したので、ふと子供を教へて見たのださうです、處が非常におもしろくてやめられないので遂に教育に一身をゆたねる事になつたのださうです。もし免許狀を失はなかつたらフレーベルももとの建築師として終つたのでありません。世の中には随分偶然の出來事によつて天與の才能を發揮する人があります。教育者としてフ

レーベルは最適した人でありました。此人は物事を神秘的に考へたらしい、また物を比喩的に考へる事が好きらしかつた。子供は植物で、學校は庭園で、教師は園丁にたとへて居ります。そして園丁は此植物を自由に發育せしめるやうにつとめなければならぬ、從來の苛酷な懲罰などから開放して、愛を基本としてその成長を助けはごこんでゆかなくてはならぬ。いちめておさへつけてしつつけをするといふやうなのは絶體に不可である。自由に自然に自分を擴張させる事が教育の主張であると云うて居ります。

しかし此愛もあまり度に過ぎてはよろしくないと思はれます、先達て青木堂へ買物に行きましたら六つ位の男の兒が硝子瓶にはいつて居る菓子を見て是非ほしいと云つてぢんだを踏んで泣いて居りました、そしてお母さんはその駄々つ子の云ふまゝになつてその菓子を與へて居られました。店屋の菓子をほしがつて泣き出すやうなのは、少



し平生 *love* が過ぎて居る結果ではなからうかと思ひました。幼稚園に於ても愛情を主とすべきは云ふまでもありませんが、あまり甘やかし過ぎぬやうにしまるべき處はよくしまつて、善良な習慣をつけなければなりません。しかし幼稚園を學校のやうに考へるのは無論よろしくありません。

私は幼稚園についてはあまりよくしりませんが日本でも義務教育までにはなつて居りませんが、本家本もとの獨逸でもそれほど盛になつては居な

いやうです。西洋では一體に幼稚園よりは幼児預り所といふものが随分澤山あつて労働者の足手まといになる子供を預つて之を嫪育して居るやうです、乳のみ兒の時から之を預つて乳母を傭ふて乳をのませて居ります。日本でもどうか幼稚園の外に托兒所といふやうなものが設けられて、労働者のはたらきを助けてやるやうにかつ周圍からの誘惑の多い貧兒を教育してやる事にとめたいものと思つて居ります。(文責在記者)

### 『ピ ッ プ』の 話 (デ ッ ケ ンス) (三)

|| 英文學に現はれたる子供(二十九)||

岡 田 み つ

僕は、相當の年になるとジョーの弟子になる筈で、それまでは、姉は甘やかしてはならぬと言つて居た。鍛冶場でチヨコくした用に使はれたり、

近所の家で、鳥を嚇してもらひたいとか、小石を拾つて貰いたいとかいふと、僕は頼まれて行つた。併し家族の品格を落してはならぬといふので、臺

所に据ゑてある、金箱の中に僕の儲ける金は皆入れるのだ、と世間に吹聴してあつた。その金が溜ると國債償還の一部に献納されるやうな話はあつたが、僕自身、その御功德を蒙つた覚えはなかつた。

村に一老婦人の設けてゐる夜學校があつた。此老婆は每晚六時から七時迄、子供を集めて置いて、居眠りをするから、生徒は其を見る爲に、毎週二錢づゝ金を拂つてゐるやうなものであつた。而して教室の一方が店になつてゐて、商賣をしてゐるのであるが、何品が店にあるのか、賣り價が幾何なのか、老婆は何も知らなかつた。唯、引出しに古い手垢だらけの覺帳がある、其を便りに、此老婆の孫娘と稱する孤兒が、商ひの方を引受けて居た。僕は、自分の努力と、このビデーといふ孤兒の助けとで、どうなり、ABC二十六文字を習ひ、それから盲目の手探りといふ風で、讀方、書方、數へ方をごく／＼低い程度ながら、覺えた。

或晩、ジョーに手紙を書かうと思つて、僕は石板を抱へて爐火の前で大骨折をして居た。沼地へ囚人を召捕りに行つてから、滿一年にもなつてゐたらうか、冬で、霜のひどい日であつた。足許に、ABCの書いてある本を參考用に、置いて一二時間掛かつて、消しだらけの手紙を書き上げた。ジョーは、僕の傍に居て、御まけに二人限りであつたから、手紙で思を通する必要も何もないのであつた。併し、僕は手づから手紙を石板ぐるみジョーに渡した。ジョーはそれを學問の奇術程に思つて受け取つた。

「まあ、御前は學者だなあ！ え、さうではないか。」と眼を圓くしてジョーは言つた。

「僕は學者になりたいよ。」と言ひながら僕は、石板を横から眺めて、字の大小不揃ひなのが氣になつた。

「やあ！ ジエーッていふ字がある。これはオーといふ字だ。また此處にジエー、とオー、とある。…

「一つでジョーだな」。

僕はジョーがついぞ聲を出して何かを読むのを聞いた事がなかつた。此間、教會で御經の本をどうかして倒たふさに持つてジョーに見せてたら、ジョーはどちら向きでも構はないと言つた。ジョーに讀方を教へるとすると、抑おさの始はじから爲する必要があるか、試めしてみやうと思つて、僕は、

「あとを讀んで御覽よ」といつた。

「あとか？」とジョーは、徐ろに探しものをするやうに見渡して「一、二、三…やあ、三つジエーツていふ字があつて、三つオーがあるからジョーツていふのが皆で三つあるんだな。僕はジョーの方へ身を寄せて、人指で字を突きながら、全文を讀んだ。

「感心ぢな！ 御前は學者だ！」

「ガーシレーツていふ苗字は、どう書く？」と、僕は少し教へる態度で問ふた。

「書く事なんかないよ。」

「假りに、あるとしてさ。」

「假りにもない…己は、讀む事は大變好きなのだがな。」

「さうかい。」

「大變好きだとも。よい本でも、よい新聞でも、あつて、火の傍に居れば、もう他に欲はない。」と膝頭を撫で廻しながら「そうとも、ジエーとオーとが見付かる度に、あゝやつとジエー、オー、ジョーが來たと思ふ。面白いよ、ね、本は」。

「御前、僕位小さかつた頃に學校へ行かなかつたのかい。」と僕は、なほも同じ話題を續けた。

「いゝえ。」

「何故行かなかつたの？」

「それはかういふ譯だ。」と火棒かぼうを取つて、例の通り火格子の間から、火を突き崩しに取掛つて「己の親父といふのが酒飲みで、酔ふとは、無法に母親を叩くのださ。」

商賣の叩く方はちつとも爲ないで、母親を叩か

なければ己を叩くのだもの、母と己れとは堪らなくなつて、幾度も逃げ出した。そういふ時は母が仕事に出て、己を學校へ入れて呉れるのだが、親父は心の底は良い人だものだから、己達から長く離れて居られなくて、大勢彌次馬を引連れて来て己達の家のまへで騒ぎをやるので、母と己は仕方なしに連れられて戻つて以前の通りになると、又ボカ／＼叩き始めるのさ。それで、學校の事はうまく行かなかつたんだよ。」

「さうだらう。氣の毒だな。」

「けれど、よく考へて見ると、おれの親父は心は善かつたのだ。さうだらう？」

僕はさう思はなかつたから、何とも言はなかつた。「それでさ。誰か働くものが無くては、その日が暮らせないから、おれが今の此仕事をやり出したのだ。もと／＼親父の職なのだか。すいぶん骨を折つて働いて、まあ、ヤツと親を食へさせる事が出来るやうになつたが、其内に親父が死

んでしまつたから、墓に、心は善い人だつたツていふ句を彫り付けてもらふつもりで居たが、高くかゝるし其上母親が身體が弱つてゐて、其方に入費が要つたから、止めてしまつた。母親も、其から間もなく、亡くなつてしまつた。」

と言つて、ジョーは目が潤んで來たのだ、火棒の頭が丸ボツチで、片方づゝ目を擦つて居た。

「其頃己は獨りで淋しかつたが、ぢきに御前の姉さんと知己ちかびになつたんだ。御前を手で育てゝゐるといふ評判で、人が皆感心して居たが己も感心だと思つたよ。その時分の御前の様子を見やうもんなら少なくて、グニャ／＼して、けち臭くて、御前自分ながら愛想が盡きたらうよ。」

僕は、あんまりよい氣持もしないので「僕の事なんかどうでも宜いよ。」と言つた。ジョーは無邪氣に言を繼いで、

「己は御前の姉さんを娶ふ時には、あの赤坊を連れて御出なさい。可愛いさうにあの子一人育て

る位の事は出来るからと言つたんだよ。」

僕は泣き出して、ジョーの首ッ玉にしがみ付いて、泣詫びた。すると、ジョーも火棒を落して、僕を抱き上げて、

「あゝ、おれと御前とは仲善しだよ。な。泣かすとよい、泣かすとよい。」と言つた。やがてジョーは、

「それだ。御前もし己に字を教へやうといふなら……前以て断つて置くが、おれはそれは鈍いのだよ……姉さんに目付かつてはいけないまあ、秘密と爲るんだ。それはかういふ譯だから。」

と、まだ火棒を取つた。ジョーはこの道具がなく  
ては、話が出来ないのかも知れない。

「御前の姉さんは、人を御するのが好きだらう。御前と己れとを勝手次第な目に遇はすのが。だから自分の傍に、學者なんぞを置きたがらないワな。わけても、己が學者になる事なんか大嫌

ひだ、己が、へい／＼してゐなくなると思ふからな。

「だつて、何故……」と僕が問ひ返さうとするとジョー遮つて、

「まあ待ち。御前の言ひ掛けてゐる事は分つてゐるがね。それや御前の姉さんは非道いさ。すいぶん己達に亂暴をするよ。氣が立つて暴れ廻る時なんかは、全く正直の處恐れ入る。處で、御前は己に何故ウンと反抗しないのといふだらう。」

「あゝ。」  
ジョーは、火棒を左の手に移して、鬚を撫でながら、

「御前の姉さんはなかく／＼やり手だ！ やり手だ！」と考へ込んでゐる。

「やり手ツて何。」と誘ひ出すやうに僕が言ふと、  
「己はやり手でないんだ。そして、いゝかい、ピツプ、之は己が本氣でいふのだよ。己れの母さ

んは、一生汗みづくになつて働いて、心配の爲通しをして、生きてゐる内に一日だつて樂をしなかつた事を思ふと、己は、どうぞ、女の人を苦めたくないと思つてな。自分は、少し位苦勞をしても、女に樂がさせてやりたいのだ。己ばかりが苦しむのだとい、けれど、この家では御前も一所だから、氣の毒でな。己一人で皆引受けてやりたいが——まあ正直の所、さういふ譯だから不足の處は勘辨しておくれ、ね。」

僕は幼なかつたが、其晩からして、ジョーに對して一種の尊敬の念を起した。ジョーと僕とは、同等で、友達であつた事は以前と同じであつたが、暇な時によく考へて見ると、僕は心の底では、ジョーに對して大に感心してゐたのである。

ジョーは、火をかき起こしながら、

「時に、もう八時になりさうなのに、まだ姉さんは歸つて來ない。途中で、馬が氷の上で這りてもしなければ宜いが。」と言つた。

僕の姉は、市の日なので、買物に出掛けてたのであつた。ジョーは、爐の前を掃除をして、もう車の音が聞こえるかと、僕と二人、門口へ出て見た、寒い晩で、寒風がヒュー／＼吹き荒んで、霜か白く置いて居た。こんな晩に、沼地に寝てゐたら死ぬだらうなと僕は考いた。

「ソラ馬の音が！鐘の音見たやうに響いて來る。」とジョーが言つた。馬車から下りる時の踏臺を出すやら、遠くから臺所の窓が、明るく見えるやうにと、火をかき起すやら、臺所に物が散在てゐはせぬかと思はすやら、種々の準備をしてゐるうちに、姉は、バンブルシユック伯父さんと二人で戻り着いた。

姉さんは、急いで外套を脱いだり、帽子を刎ねのけたりして、

「この子は今夜こそ有難いと思ふがよい。こんな夜有難くなけりや有難いなんといふ事は、一生涯ありやうしない。」と言つた。

何が有難いのか一向解せぬながらも、僕は、努めてそんなめいた顔をした。

「たい、甘やかされると困るのだが。其處のところは少し案じられる。」と姉が言つた。

「あの婦人は、そんな性質ではない。あの婦人は少し利口だ。」とバ伯父さんが答へた。

「女？」と僕は唇と眉毛とで暗にジョーに尋ねると、ジョーも、僕を見て、やはり唇と眉毛とで「女？」と問ひ返した。その舉動を妻に見付けられたのでジョーは、詫る時の御きまりの態度で、手の甲で鼻を擦りながら、妻を見た。

「え。何を見詰めてゐるの。こゝの家に火事があるの？」と怒鳴り立てられて、ジョーは、

「誰だか、今女がどうか言つたから。」と謹んでいふと、

「女だから女さ。ハビシヤムさんを男だといふ氣なの。なんぼ御前だつて、まさかさうも言ふまいが。」

「山の手のあのハビシヤムさんかい？」

「下町のハビシヤムさんであるかよ！ あの婦人がこの子に來て遊び相手になつて呉れと御言ひのさ。だから、遣るのですよ。あすこへいつて遊ぶがい。さもなけりや家でこき使つてやる。」

と姉さんには、僕に對つて、頭を振つて見せた。

ハビシヤムといふ婦人の事は、僕も聞いて居た誰もこの界限で知らぬものはない位に、金満家の怖い婦人で、盜賊除けの嚴重にしてある大きな陰氣な邸に遁世的の生活をしてゐる人であつた。

「さうかい！ どうしてビツブの事を聞き知つたろう」とジョーは呆れて尋ねた。

「阿呆！ 誰がハビシヤムさんが、ビツブを知つてゐると言つたへ。」

「今誰かの話に、ハビシヤムさんが、ビツブに遊びに來て欲しいと言つた、といふから」

「だつて、ハビシヤムさんが、バ伯父さんに遊び相手になるやうな子供は無かろうか、と尋ねな

いとも限らないではありませんか。バ伯父さんが、丁度ハビシヤムさんの家賃を借りて居て、家賃を拂ひに行つて、ハビシヤムさんに面會することもあるだろうではありませんか。其時にバ伯父さんは、始終私達の事を心に掛けて居て下さるから——御前さんはそうとも思はないかも知れないが」とさもくくジョーは恩知らずだと言はぬばかりの調子で述べて、「此跳ねまはつてゐる荒れあはッ子を、ハビシヤムさんに周旋して下すつたのかも知れないではありませんか。」

バ伯父さんは、

「巧いく。言ひ方がながく上手だ！ 實に巧い！ ジョーもそれで話の始終が解つたろう。」と言ふ。

姉さんは、やはり尖り聲で、ジョーに向つて、「御前さんにはね、未だ譯が分らないんでせうよ。自分では、解つた氣かも知れないが、決して解りツこはない。バ伯父さんは、此子がハビシヤ

ムさんはへ行けば、運の向く事もあらうかと御思ひなすつて、今夜のうちに御宅へ連れて歸つて、一晚泊めて、明日御自分でハビシヤムさんの邸へ連れて行くと仰るのですよ。さ大變だ！」と、急に帽子を放り出して、

「伯父さんが待つて御出だといふのに。私や馬鹿者どもに御饒舌りをして居てさ。馬だつて戸外おもてで寒かつて居るだろうに、而して此子といへば頭あたまの先から爪先まで、泥ぼつかいに成つてゐる！」

と言ひざま、姉さんは僕を捕へて、流し元の鹽に僕の顔を押し込んで、頭を水道の口へ差し付けて石鹼を塗る、捏こねまはす手拭で擦る、打つ、叩く、もう僕は氣が變になりさうになつた。まあやつと顔洗ひが濟んだと思つたら、糊の硬いくシヤツを着せられ、ごくく窮屈な着物を著けさせられたさあよし。とバ伯父さんに渡された時、伯父さんは僕を引取つて、先刻から言ひたくて口をむぐ



くさせてゐたことは、

「御前の爲を思つて下さる人達を、有難いと思へよ。殊に御前を手で育てた人達をな。」といふ詞を僕に浴せ掛けた。

僕は、

「ジョー、さやうなら。」と言ふと、ジョーは、

「あゝ、機嫌よく行つて來な。ビツプや」と言つて呉れた。

僕はジョーに別れた事がないので、始めのうち

## つとむさん

ある年のことであつた。近所の豆屋の主が突然幼稚園に來られて、四五日前五才で入園したつとむさんが幼稚園からの歸り路で、豆をつかんで逃げて困るから。以後御注意下さいと云つてかへられた。つとむさんは、可愛想な子であつた。ある

は、目に入つた石鹼の泡の爲と、切な情との爲に馬車の中から、外を見ても星さへ目に入らなかつた。併しやがて星は一つく煌めき出したもの。僕は、ハビシヤムさんの處で何だつて遊びに行くのだから、また何をして遊べといふのだが皆無分らなかつた。

（ビツプの話も此先はまだくあるのですがあまり一つ事が續きますから、ザッケンスは暫く御休みにして他の作者のものに移りませう）

## 狸園

うどん屋のひとり子だが實子ではない。下女の某が職人と通じて出來た私生兒ではあるが、主人が子のないのを幸ひに長男として育ててくれたのはよかつたが、幸か不幸か其後女の實子が出來た。つとむさんはあまりものになつてしまつて、養父母

の愛は妹に奪はるゝ様になつた。實母はつとむさんから下女として取扱はれて居るが、養父母が我子に對する仕方の心足らず不快の心に耐へかぬる時は、いつもつとむさんを打擲して養父母へあてこすりをした。つとむさんは養父母にはいつも冷たい扱ひをうけ、下女だと思ふ實母よりひどい體罰をうける、どんなにつらかつたであらう。其の上店の若いもの共よりよからぬ行を見習らつて日に日に心が荒んで來た。妹をひどくしたり店の人達をも困らす事もある。其度に養父母の愛は冷え實母は尙々打ち腹立ちてひどくこらしめる。つとむさんは養父母も下女も店のものも近所の人も皆我が敵であるとの自覺は次第に高じて、大人に對する反抗心は極度に達した。されば入園後も友は己が玩具として愉快を覺ゆるもの、先生達は我を呪ふ鬼であるとの考へで居つたらしい。先生は此子供がかゝる事情の許で育てられた事は知つて居

たが性質がかく根底から荒んで居る事を知らなかつた。豆屋さんから話のあつた翌日つとむさんを一室に呼んだ。「つとむさん、あなたなせ、おかへりに豆屋さんで、いたづらをしましたの」「あのねあの……そんな事はしません」「だつて豆屋のおじさんが、いらしつてお話でしたよ」「あの……ね、何にもしませんよ」「よい子だから、かくさないで仰しやいよ、物をかくしたり、うそを云ふのは、よくない事なんですよ」「……」「かくさないで、皆云ふておしまひになる様な子はりこうもの。なんだかね。あなたのすきな千代ちゃんはね、いつでもかくさず何んでも云ふ子ですよ」「……」。先生少々閉口の氣味であつたが氣をかへて。「つとむさんの御手々の大きな事こんなに。つよそうだから大きくなるとよい兵隊さんになれますよ」「僕大きくなつたら大將になるの」「あゝなれますよ。この位つよいとね、だがね大將になるのには、物をかくしちや、だめですよ。つとむさんは、かくさな

かつたら大將になれるんだがね」……」きのふね  
まめやさんの御店の前を通りましたか」ただうな  
づくのみ「豆をつかんで、まいたでせう」又うな  
づいた「そんな事はよくない事ですの、よくない事  
をする」と大將にも何にもなれませんか。これか  
らよしませうね」と云つた時つとむさんは、じつ  
と顔を見てうなづいた。普通のいたづらものは、  
これで一段落だから先生は其つもりで放してやつ  
た。

一時間程経て他の先生から。抗議を申しこまれ  
た。其の話によると、一團の幼児が幼稚園事をして  
楽しく遊んで居る所へつとむさんが来て、「僕先生  
になるから御ならび」と命じた。常から恐ろしく思  
つて居るつとむさんだから云ふがまにまに圓陣を  
造つた。つとむさんは中央に立つて、じつと見て  
居たが、つと走り寄るかと思つると、電光石火の勢  
で端から手を舉げて打つた廻つた。あまりの不意  
打ちに衆兒はただ目を見張り呆れるばかりであつ

たが、五六番目に居つた女兒が聲を舉げて泣きた  
した。これに氣を得て二三兒一時に聲を擧げた。

「先生つとむさんが」と云つた時は早や走り去つて  
陰もなく、泣く子の聲のみ聞えた。先生は先刻か  
ら見て居つたが、これもあまりの早業に手を出す、  
すきもなかつたのである。泣く子をなだめた後事  
件のなり行きをつとむさんの受持に話した。其日  
子供をかへした後の職員會で、つとむさんの普通  
の子でない事、如何に處置すべきか、如何に保育  
すべきかについて種々打合せもし議論も出たが遂  
に其原因を種々の方面から手分けして調べると云  
ふ事になつて種々苦心の結果前記の事情をたしか  
めた。さては。つとむさんは愛情なるものを知ら  
ぬ子だ。暖かみを覚えぬ。水の様な周圍で育つた  
子だと知れて見ると保母の全員は彼れに對する愛  
は湧きたたず居られなかつた。かくて園内に遊  
ぶ内は同情ある先生の手に取扱はれ居るから師に  
對する反抗心は次第に落ち付いて來た様に見える

が園を一步ふみだすと、「小林君一寸まで」そら出て来た。小林君逃げだした。「おい。まてと云つたら」と追ふ。小林君逃れぬ所と観念し「なあに」とふりかへる。「其れを見せたまへ」と云ふなり小林君が苦心して作りあげた今日の製作品を見る間に壊してしまつた。衆兒はただ恐ろしげに見て居るのみ。小林君も負け嫌ひの子供だから、半泣きになりながら手を舉げて打つてかかつたが到底つとむさんの敵ではなかつた。路行く人に助けられ園に送りかへされた。かゝる事は大い毎日程あつた。二ヶ月経た頃横町の古着屋のおちさんが先生に御目にかゝりたいと云つて來られた。何用かと伺ふと又つとむさんの事件だ。先日から度々店の賣品にいたづらをする釣りぎれを引落す事もあれば衣類の間にもぐり込む事もある昨日などは美しい帯に泥をぬりつけた。丁度店の者が居たから「コラ〜」と追ひ行くと頑情な態度を示し肩を聳し腕を張り横目でにらんで「なんじやい、こらなんじ

やい」と逆襲をする末恐ろしの子供ですから一寸御注意をとてかへられた。唯一の同情者たる先生達はつとむさんの事件のある毎にいよいよ哀れの念増して、或はすかし或は叱りなだする事もあれば賞詞賞品で奨励する事もあり全員手を盡し心ありだけ配つて居つたがこの古着屋さん事件を聞いて、うんざりしてしまつた。中にも受持などの落膽と云つたら、例へるものがない。自分の腕が足りないからであらうか、まだ愛し様足りないないのであらうか、取扱ひに間違の點があるのかと終には聲を舉げて泣くのである。けれども打ち捨て置く事でないから保護者を召喚したが家が多忙だとか云つてどうしても出て來ない。家庭訪問をしては店の者共にあまり、つとむさんの悪行をきかせたくないとか云ふ慈悲心から、ひかへた。しかたがないから實母なる下女をよびだした。園長から同情ある言で、つとむさんの過去將來につき聞きもし話しました。實母はいかにも恥ぢたる様

にて己がふしだら及其後の経過を語り現在のつとむさんの有様を話しては泣き聞いては後悔にたへぬ様であつた。遂に一時家庭を放してはと相談したが經濟上さる事も出來ず御迷惑なれば退園をさしてはといふ氣毒げに云つたが、この哀れなるつとむさんが溫き園を離れ冷き家庭のみにあるとすれば、どんなものになるであらうと思ふと、どうも離す氣になれず、遂に終日園に預り規律ある生活をして朝は實母より受取り夕は受持保母家庭へ送り届け途中の惡戯の機會のない様にしたならばと約束して翌日より實行した。所が又他の方面に向つた。それは一職員の妹を園の幼兒として預つて、居つたが常に姉と共にかへる事になつて居たからつとむさんが終日保母の傍に何かして遊んで居る内つひ手を取つて親しむ様になつた。双方ともいつも保母の用事の手傳とか畑の掃除とか勞働をして御菓子を貰ひ楽しく遊んで居た。が或日の事共に植物の枯葉取りをさして居た所へ來客が

あつて保母は傍をはなれた。すると俄かに女兒の泣き聲がするので驚いて行つて見るとこれはいかに、つとむさんは野獸の様な勢でけしかる振舞をして居る。翌日より早速女兒を斷り園第一の善良男兒を友に頼んで嚴しく監督した。そしてかゝる幼兒は當然かゝる行爲の出来る事を豫想して注意しなかつたを悔いて以後殊更に全力をつくして豫防した。其爲めか、かゝる行爲はこれ限り見る事がなかつた。かくて其後二ヶ年間一日の如く力のあらん限り保護もし誘導もし或は保母も共に泣き或時は手を取つて喜び又或時はをどしもし。すかしもした。その日記の一節を引き抜けば

九月十五日

一、朝の時間に於て自由に放したる際は彼はぼたんがけの紐にて他幼兒の顔面を叩き廻りたり（後他兒に彼の行爲を尋問すれども彼を恐れし爲なるか一言も發せず。）

一、外遊より入る際木馬及車の置き場所を正しく

なしたり。

一、室内より出づる際出入の戸せまく開かざりしを彼は卒先し開きたり。手洗の際他幼児を押しし泣かしめたり。其言ひ譯けは（後より他兒押したるにより僕も押したり。）

一、幼児退出後には一人おとなしく砂場にて遊び居たり。

一、園の出入りの商人に本の繪を質問し正しき答へを得たるに其れは間違ひ居れりと彼を責めたり。

一、園長より左右の手により善惡を調べられしに善行を増してもあまり喜ばず。惡行を増しても悔いず。平然たる有様なり。

一、返答を求むる事あるも直に答へず。

九月十六日

一、砂場に落ち居たるはかりを拾ひ來れり（依りて各室に付尋ねしめたり）。

一、禁止は容易に守らず。

一、副食品にはかまぼこ、油揚。

一、午前十一時よりは砂場に於て靜かに遊び手拭を拾ひ來れり。

一、同一の遊嬉は長時間續づく事まれなり。

一、食事を終へて後は繪畫手本を暫時見たる後畫き方をなせり。

一、室内に於ては自分のよく知り居る事にても直ちに保姆に尋ぬる事を常とす。

九月十七日

一、机のまがりを正したり。

一、汽車電車等を作り他兒と仲よく遊び居たり。

一、室内に於て遠き幼兒の許へ行き繪本の交換を望み泣かしめたり。

一、相撲を取らしめたるに意外の取組に満足し力限りの勇を出し相手を負かし意氣旺盛なりき。

一、食事に際し昨日と同一の副食品なりし爲なるかかまぼこの皮を取りこれを嫌ひ飯に稍々色つき居たるを見てほこりなりと稱し食す事を拒み

たり、再三云ひ聞かせたる結果食したり。(うど  
んやなるためいつも、かまぼこと、油揚なり)。  
一、午後は書き方をなし一時間餘靜に遊び其書き  
たる畫に年月日及び其の名を書きたるに非常に  
興味深く再之書き其の名を保姆に書き貰ひた  
り。

一、次に、おやつに、おはぎ、三個與へしに非常  
に喜び二個半を完全に食し半個を遊び居たり  
其所感に曰く「おはぎははじめてでおいしい」。

一、餘時は、ぶらんこに乗り又は幼年畫報を見其  
説明を望みたり。

一、保姆の手をふみ、「いたい」と云へば、「ばち  
だ」と答ふる事再三なりき。

十月二十三日

一、早朝より本日の辨當器の新らしきを多くの兒  
童に吹聴し喜び居たり。

一、談話の際他人の所持品に誤りて壞したる時は  
如何に所置するかの間に對し戶外にて拾ひたる

金子にて同一品を求め返へすと云ふ。保姆はそ  
れは盗人と同様なることなり」と話せしに兒は  
又手品にて出し返すと云へり。

一、べんとう器の新らしきを喜び食後前掛にて  
拭ひ居たり。

一、歸りの際他兒の忘れたる辨當を持ち來り保姆  
に渡したり。

一、板畫して遊び居たり。

十月二十四日

一、朝の間は男女兒、合して兵隊事を室内に於て  
演せしが室外に於てなせと云ひたるに「皆が笑  
ふからいやです」と答へたり。

一、其れより外に出て二三兒と軋轢を生じ喧嘩を  
二三度起したり。

一、次に板を使用し女兒と共に仲よく落し山等  
演じ遊び居たり。

一、其間に年長兒入り來り又もや軋轢を生じ板の  
取合ひを始めしかば仲裁して彼れに取らしめ彼

れをして満足に一日を遊ばしめたり。

一、副食物には、かまぼこ、漬物。

一、前日に於ける活動寫眞の談話を語らしめたり

「即ち敷島俱樂部へ行きました」。「如何な寫眞を見ましたか」と云ひしに、「女の人が河へ落ちる男の人が助けたところを見ました」と云へり。

## グロースの遊戯論

倉 橋 生

以下の日誌は略す

漸く學齡に達し其の年四月小學校へ送る時は根本的に人格を變へたとは云へぬが不良分子だけは充分取り除いたと自信した。

小學校の訓導に入園以來の有様及取りし方法を充分話し將來を、くれぐれも頼んで置いた。(終)

グロースの遊戯論は、皆さんは兒童心理の書物を御覽になりますと大抵の書物には皆参照して

居ります有名な書物であります。遊戯の事に關しましては、別段改めて申上げるまでもない、御分りになつて居る事のみであらうと思ひますが、普通の書物には、グロースの事を餘り詳しく論じて居りませぬ。即ち遊戯の根本的研究の一つとし

て、之れを出来るだけ忠實に紹介して見たいと思ふのであります。

グロースは元來美學者でありまして、初めて著述せられました時に、美學入門と題する書物を書きました。それから以來、美學と遊戯と關係あると云ふ所からして、此書物の著述に着手せられたのであります。一番初めに出したのは、「動物の遊



「遊戯」と題するので、これが千八百九十五年に、ギルセンから出版になつて居る。其次に、「人間の遊戯」と云ふ書物を書かれました、これが千八百九十九年にパーセルから出版して居られます。其「人間の遊戯」を書かれました時に、色々兒童のことを研究されましたとして、「兒童の精神生活」といふ書物が、千九百〇四年に、第一版を出されて千九百〇八年に、改版して第二版が出て居ります、先づ我々の直接關係のあります問題に就て、グロースの著書は、これだけであります。近來では大部の美學に關する著述をされて居る途中でありまして追つて其書物が出る筈であります。極く最近には、妹さんでありますか、お嬢さんでありますか、或は奥さんでありますか、或る婦人の名前と一緒になつて、獨逸の、色々文學等を研究した、雜誌等で發表されて居ります。

グロースの遊戯書物は、二冊兩方とも、英譯が出来て居ります、亞米利加の、ポールドインと云ふ

人が、英譯して居ります。で、一方は、動物の遊戯の方であります、一方は、人間の遊戯の方であります。可なり色々な事が充實して、極めて書いてありますからして、内容に於ては、餘程大部のものになつて居ります。

さてお話の順序としてグロース自身の遊戯の學說に這入ります前に、其先驅としてグロース前の遊戯論から考へてゆきたいと思ひます。

遊戯の問題殊に子供は何故遊ぶであらうか、何故遊ぶことを好むであらうかといふ説明、即ち遊戯の由來の方面に就て、グロース以前に於て、一番勢力を得て居りましたのは、過剩勢力説といふのであります。此學説は、ズット古く其の元を索ねて見ますと、彼の有名な獨逸の詩人のシルレルに其元を發して居ります。シルレルが、人間の美育に關して、美術的教育に關する手紙を、澤山友人其他の人に送つて居りますが、其手紙を集めて居るものの中に、此種類の説が出て居るのであり

ます。其手紙に依つて見るといふと、凡そ斯ういふ事を申して居ります。「自然は總ての世の中の生物、理性を有して居ないやうな生物にまでも、其生存に必要なもののみを興へたばかりでなくして多少の餘裕が興へてある。即ち生活の爲に押し追まられた、色々の必要な事はかりでなしに、自由が多少興へてある、獅子が野を彷徨ふて居りました、腹の空いて居る時には、其空腹を充たす爲には餌食を涉さる。しかし、空腹が充たされた後も餌食を涉さるやうなことをして、色々深く野の方を廻つて、彼所此所を駆け廻つて居る。小さい蟲は己れの必要以外の、明い方に集りて、日光に浴しやうとして居る。又鳥は自分の友を呼ぶといふ生活の外に美しき聲を出して鳴いて居る。斯う云ふことが色々な生物界に行はれて居る。これ等は自己の生活の必要以外に行はれて居る、自由の範圍に屬することでありまして、これが即ち遊戯である、斯ういふのであります。即ちこれを約め

て申しますと、生活に必要な丈の勢力を、生物が用ひて居る時には、それは、仕事であつて、生活に直接必要のない範圍まで、餘計の勢力を使つて居る時に、これが遊戯となる、といふ事を言つたのであります。これが即ち過剩勢力と云ふ言葉の出ました、基でありまして、先づ學說といふ程にはなりませぬけれども、元を索れば、シルレルに是だけのこと、書かれてあるのであります。斯う云ふ説が、シルレル以降、色々の人に依つて唱へられて居りまして、有名な、ジャンパウルまでが叫んで居ります。ジャンパウルの言つて居ります言葉で、仍且さういふ意味を申したのがあります。即ち遊戯といふものは、我々の精神及び肉體の兩方の力があり餘つて出來たものである。我々の精神及び肉體の力が、有り餘るから出來たものである。而してシルレル及びジャンパウルに依つて斯く云はれて居る考へは、英吉利の哲學者でありまして、スベンサーに至りまして、一つの學

説の形を成して來ました。スベンサーは、大著述

たる心理學原論の中に、審美的感情といふ章を設けまして、其中で遊戯のことを論じて居るのであります。スベンサーの書いて居りますのは、自分は曾つて獨逸の書物の中で、遊戯は勢力の過剰に依つて生ずるものであるといふ説を、チョット見た事があるけれども、其説を何人が言つたのであるか、或は其言葉がさうでなかつたか、スツカリ忘れて仕舞つたけれども、其考は自分に一つの刺戟を與へて、自分が今や遊戯の學説を考へる時に當つては、これと同じ事を考へざるを得ない、と斯ういふ事を論じて居る。今から考へると、スベンサーはシルレルの手紙を讀んだものと考へられるのであります。先づ普通遊戯の研究の中で、過剰勢力説と云はれて居りますのは、シルレルに始つて、スベンサーに依つて、組織立てられました。「シルレル・スベンサー」説といふ學説であります。これから此二つを批評して御話して行かうと思ふ

のであります。

スベンサーの學説が、シルレルの考に對して、全く同じであるか、或は多少の改竄を加へてあるか、改良を加へてあるかといふことを、第一に考へて見ます。大體スベンサーの書いて居りますこととで、シルレルが先程申上げました手紙の中に書いて居りますやうなことは、大體に於ては、其儘來て居るのでありますが、此所に一つの違は、スベンサーになりましてからして、遊戯の學説の中へ、摸倣即ち眞似をすると云ふ、一つの精神活動を重要な要素として加へて居るのであります。

スベンサーの考へますには、成程遊戯と云ふ者は、我々の精神及び肉體の力が有り餘るからして生ずるものであるけれども、若しそれ丈けであるならば、總ての生物の遊戯といふものは、皆同一でなければならぬ。然るに總ての生物は、其種族に依つて遊ぶことも違ふ、其種類の違ふことは何によりて説明するであらうかといふ議論に逢着しまして、

それは摸倣と云ふ一つの精神作用よりからであるといふ解釋が出来たのであります。即ち其遊戯は其生物の勢力の過剰から現はれるのであるが、何等かの形を執る上に、大人の仕事は大人の遊戯と一致する道理であるといふ風に論じたのであります。此點はシルレルが、單に精神的にのみ考へて居りましたのに對して、最近にスペンサーが學問的に、遊戯を考へて來た結果でありまして、慥かに着眼に於ては、大なる進歩であります。しかし其に心付いた所は進歩でありますけれども、解釋の仕方に至つては、これが間違であつたのであります。

是より後、シルレル・スペンサー說、即ち勢力過剩説は、色々の學者によつて、批評されました今日此グロースが大成するやうになりましたのは、主としてスペンサーの摸倣といふことが主となつて居るのであります。良い事は考へましたけれども、説明の仕方で過ちを犯かしたといふ次第であ

ります。此所まで申上げて來て、此シルレル・スペンサーの説を、モット簡單に、分り易く約めて考へて參りますと、凡そ四つの段階に、今までの學説を約める事が出來ます。即ち勢力過剩説は次の四項の段階によつて、これを説明しやうとするのである。

第一は、高等なる動物は、下等なる動物よりも、生活に就て樂である。詰り自分の有つて居る、精神の力及び體力といふものは、生活の必要にのみ使はないでも、充分に其所に餘分が生ずる譯である。これはスペンサーが論じて居ります。下等生物だけそれだけ生活に忙かほしい、人間でも下等の人と、上等の人は、生活の忙がさが違ふのである。スペンサーは面白いことには牡蠣かきを取つて來ました。多少發達した動物ならば、犬でも馬でも海老でも蟹でも、皆遊びますけれども牡蠣、が遊んだのを見た事はない、牡蠣のやうな、下等のものになると、生活の爲に非常に忙がしくて、

餘力を以て遊戯をするといふことは出来ない、といふ例に使つて居ります。

第二段としては、其あり餘つたる力が、外部に溢れる時には、一方の力は何か一つの仕事をすることも知れないけれども、他の一方の力が幾つもあり餘つた所から、一つの力が仕事をして居る間に他の力は仕事がなく、單に付き纏つて居る。即ち我々の生活といふ方のものは、勢力といふものは一部分だけ仕事に使つて、一部は使はれずに居るといふのである。

第三の段階になりますと、其使はぬ力が、或る程度まで上ると、ジツトして居ないで、何か外部へ溢れ出るやうになる。

第四の段階では、其溢れ出たる勢力といふものは、摸倣によつて、何かの遊戯の形を執る。斯ういふのが、勢力過剰説の大體であります。其所で此四つに分けました、第三段目までの個條といふものは、これは論のない事でありませんが、我々の

問題になつて來るのは、第四番目の溢れる勢力が、遊戯を形造つて行くといふことになりますから、これから摸倣といふ事に就て、少しく議論をする必要が起るのであります。

グロースの考では、此摸倣によつて、子供が遊ぶとい事が、大に氣に入らないのであります。即ち勿論グロースでも、色々の遊戯の中には、摸倣を基の遊戯といふものを認めて居りますけれども、總ての遊戯が摸倣を基にして居るといふことは、どうしても賛成が出来ない、即ちグロースの考では、摸倣といふ如き高尚なる精神活動よりも、モット初期の、モット低い所のものによつて、遊戯が行はれる。摸倣で遊ぶといふやうな、高尚なる精神活動が、まだ起らない中に、子供は多く遊ぶものであるといふ事を云つて居ります。

遊戯があつて、それから後に生活といふものが出来て居るから、生活よりは遊戯の方が先きである。遊戯は摸倣に非ずして、豫行であるといふ考

を出して居るのであります。それに就て色々例を列べて居りますが、小さい鳥は、まだ飛ぶといふ必要がない中に、巢の中で矢張り翅を動かして居る。又若い動物は、まだ生活の爲に外へ歩き出る必要のない中から、脚を動かして飛んだり歩いたりして居る。又猿の極く小さい赤ん坊も自分の爪を以て何か握らうと藻掻いて居る。犬も又色々の他の犬と走つたり或は口先を舐つたり、さういふ風な色々な仕事をする必要のない中に、飛んだり轉ねたりして遊んで居る斯ういふ色々な生物界に行はれる現象と云ふものは、單に相當に發達したる生物の、して居ることを見て、それを眞似するといふよりも、モット初期に於て、生物が勝手に自分で遊ぶのである、さういふ事例を擧げて證據立て、居る。此點に於て、第一グロースが攻撃して居るのであります。

摸倣といふ考へで、遊戯を見ましたのは、スペンサーのみでありませぬ。極く近頃では、獨逸の

大心理學者のザントなども、此摸倣を以て遊戯の要素として居ります。グロースは矢張りザントの説を攻撃して、摸倣説はいけないと云つて居るのであります。

それならばスペンサーの説の中から、摸倣といふ事を取除いて仕舞つて、……唯今までは、スペンサーの説を主として批評し攻撃して參りましたけれども、摸倣といふ方を取除いて、其殘る部分に於けるスペンサーの學説は、どう云ふ風に批評すべきであらうかと云ひますと、これ又種々な攻撃點が起つて來るのであります。先づ我々の精神及び體力に於て、旺盛なる時には我々が能く遊ぶといふことの、日常の現象たることは疑ふことの出來ないことであります。即ち機嫌の良い時に遊ぶといふことは、總ての生物界通有の現象でありまして、此點は誰れも疑ふ事の出來ないことであつて、最も生物界に於ては天氣の影響を受けて居るのであります。良い天氣の時には鳥も遊ぶ、他

の動物も遊ぶといふことは疑ひのない事實であります。即ち心に一つの愉快があり、或は身體の健康が非常に秀れて居るやうな場合、換言すれば、精神的肉體的に於て勢力が過剰した場合には、我々は能く遊ぶ。殊に鳥に於ては、過剰したる勢力は、聲となつて現はれる。人間でも機嫌が良いと鼻唄でも唄ふ。上機嫌といふものは、我々の愉快の原因になるといふことは、これは疑ひのない事實である。疑ふ事の出来ない事實でありますけれども、而かも此機嫌の良い時の我々が、能く遊ぶといふ一つの事實が、果して我々の遊戯全體を説明する事が出来るか、即ち體力の旺盛と、精神の快活といふことは、我々の遊戯を起さず、必然の原因になつて居るであらうかどうであらうかと、これを考へるのであります。總ての我々の精神活動といふものは、其精神活動の行はれるのに、都合の良い一つの事情といふ事と、精神活動を行はなければならぬ一つの原因といふ事とは違つたこ

とであります。即ち好都合なる事情といふことと精神活動が起る爲には缺く可からざる原因といふものとは、區別する必要があります。此遊戯の場合に於て、勢力の過剰、即ち身體及び肉體に於て機嫌の良いといふことは、其孰らに屬するものであるか、スベンサー及びシルレルは此二つの區別を恐らく忘れて居つたのであります。即ち勢力が過剰して機嫌の良いことは、遊戯の好都合なる事情であるといふことは、我々も賛成せざるを得ないのでありますけれども、之が遊戯の全體の基礎である、即ち勢力過剰が根柢をなして、これを作るといふことは、同感し難いのであります。殊に勢力過剰説の人は、總ての遊戯が、前に申しました、色々の形を以て、生物に特有なる形式を以て現はれて來るといふ事に就て、始終困難を感じて居るのであります。其點から申しましても、これは何か他の關係を以て補はなければならぬ。其所で此所まで論じて參りますと、クロース自身の

説が、此所から出て來るのであります。

グロースに言はせるといふと、此正しき解釋といふものは、スペインサーも殆んど其側まで行つて居る。スペインサーの書いたもので生物論を讀んで見ると、自分の説の眞近まで行つて居る。スペインサーは遊戯は勢力の過剰に起る、其勢力過剰は摸倣によつて、遊戯の形を取るといふことを論じて其次に、どう云ふものが摸倣されて居るであらうかと云ふ議論を提唱して居らぬ。單に摸倣と云つても、どんなものが摸倣されて、どう云ふものが摸倣されないかといふことは、直ぐ起る疑問であります。此事で我々が過つたのである。子供は甚だ摸倣性に富んだものであるといふ論でありますけれども、若し摸倣性に富んで居るものであれば甚だ詭辯のやうになりますけれども、兒童が單に摸倣性のみ富んで居りますならば、兒童は何も出來なくなる。周圍には色々の物があつまして、例へば、椅子もある。机もある。犬も居れば猫も居

る。であるから、摸倣性を最限なく發揮するものとすれば、兒童は何も出來なくなる。兒童は摸倣性に富んで居るといふ事以上に我々は此問題を調べて考へなければならぬ。兒童は或物を摸倣して或物を摸倣しない、其原因は何處にあるであらうか、又兒童だけに就て考へて見ますと、少し分り悪いやうな事ではありますが、生物全體の摸倣性といふものから考へて見ますと、生物は其種族の摸倣しかりしないのである。人間の子供は多くを摸倣しますけれども、犬、鳥、猿などの摸倣する時に、或る種族特有の摸倣の手法といふものは決つて居る。兒童は摸倣性によつて、色々の遊戯をなすけれども、何を摸倣して、何を摸倣しないかは、是非考へなければならぬ問題になるのであります。其所以此問題を自分で列べて、スペインサーは斯う答へて居るのであります。それは非常に大切な事でありますが、其生物の摸倣するものは、其生物に取つて必要な。或は特別な關係のある動作のみ



を摸倣する、或る生物が、(人間も其中へ這入りませんが)生物或は其子供の摸倣するのは、其生物に取つて、其生物の生活に必要ななる、或る特別な關係を有つて居る動作のみを摸倣する。斯う云つて居るのであります。さう考へて參りますと、問題は摸倣といふ事でなくして、何が必要かといふ事が、或は適切な問題になつて來るのであります。

即ち摸倣といふことは、兒童の精神活動の方面から云つて、一つの條件ではありますけれども、其摸倣が或物を摸倣して或物を摸倣しない、スペンサーの考へて居りますやうな、特別な關係ある物だけを、摸倣すると致しましたならば、摸倣といふものは力である。こちらの方が大切な問題になります。其所で、生物は何を眞似するかといふことに、我々は眼が着いて行かなければならぬ、グロースが、自分の學説を作つて行つたのは、其點に出て居るのであります。スペンサーのは斯うも言へるのであります。生物は其生活に特別必要

なる動作のみを摸倣すると云つて分るのであります。別の言葉で以て名付けましたならば、それは直ちに、本能と字が當て嵌まるのであります。

其生物が生活に特別に必要な關係ある事柄といふものは、即ち生物特有の本能といふことになつて來たのであります。でありますからして、グロースの、遊戯は本能であるといふ所の考へは、直ぐに此所から起つて來るのであります。其所で此本能説と勢力過剩説とは、どう云ふ風な關係を有つて居るかといふことを、もう少し進んで考へて見たいのであります。

グロースの考ふる所によると、總ての生物にはそれに特有なる本能がある。其特有なる本能が其儘現れれば、其生物特有の遊戯となるのである。生物特有の本能が、其儘外部へ現はれて、それが其生物特有の遊戯になる、決して摸倣と云ふやうな、一種の手段を俟つて、其生物特有なる遊戯といふものが出來る譯ではない、さう考へて參りま

すと、グロースも、勿論、或勢力が過剰して居るといふことは認めて居りまして、繰返して申しましたやうに、遊戯の好都合なる事情といふ中には數へて居りませぬけれども、本能といふものを以て遊戯の説明をする場合に於ては、此過剰勢力といふものは、其一つの非常に大切なる働きを、奪はれるやうな形を呈して來るのであります。即ち過剰勢力説の方では、遊戯は總て力があり餘つてそれが外部へ出て遊戯となるといふのでありますけれども、一度本能といふものを取つて、遊戯の説明をするやうになれば、本能以外に過剰の勢力はなくても、色々の遊戯を作るといふことを考へざるを得ない、即ち生物に特有なる本能があるといふ事は、即ち本能そのものを外部へ發揮することに自然になるのでありますから、遊戯は本能によつて起るものであるならば、何も過剰せる勢力といふやうな、他の働を借りる必要はないのであります。即ち遊戯の動力といふ事と、遊戯の形式

といふ事が、グロースの説になると、一緒になつて仕舞つた。別にグロースの申した言葉ではありませぬが、分り宜い爲に斯う云ふ言葉を用い得られます、前説の動力は過剰勢力であつて、形式は摸倣に據つた。グロースのは形式も動力も、一緒になつて、それを本能が支配して居る。グロースとシルレル・スペンサー説の、違ふ所は、最も此點を存するのであります。

此所にチヨット峽みまして、もう一つ他の學説を御紹介して置きます。グロースが、本能説といふものを出して、さうしてシルレル・スペンサー説を攻撃しない以前に於ては、過剰勢力説の敵といふものは、勢力恢復説と稱せらるゝ學説であつたのであります。即ちシルレル・スペンサー説の、遊戯は勢力の過剰によつて起ると云つて居るに對して、主として獨逸のスタインタール其他の人が、勢力恢復説といふ事を言ひ出した。之等の人々の考へでは、總て此の人間の遊戯といふものは、遊

ぶといふことは、實生活によりて消費されたる勢力を恢復する爲に存在して居るものである。我々の實生活によつて、消費されたる勢力を補充するのは、一方に營養と、一方に睡眠と、此二つによつてであつて、もう一つ其働きの補ひをするものは遊戯である。斯ういふ事をスタイルタールは言ひ出した。此學説はナカ／＼勢力を持ちまして、皆様も名前をよく御承知の獨逸の、體操遊戯の學者で、體操の事を非常に論じました、グッツムースといふ人は、遊戯全集といふ書物を書きまして其標題に斯ういふ言葉を使つて居る。此本は身體及び精神の運動と恢復の爲の遊戯を蒐めたものである。身體及び精神の運動の恢復の爲め遊戯を集めたものである、我々の考へによりますれば、精神及び身體のとして宜いのでありますけれども、グッツムースは斯く信じて居りましたから、身體及び精神恢復の爲の遊戯といふことを殊更に書いて居るのであります。此説の名前だけを御紹介し

て置きますが、シヤラー、或は、ラザルス、斯ういふ風な人が、皆な此勢力恢復説を信じて居る。殊にラザルスといふ人は随分外國の方にも有名な學者でありますが、この説を分り易い爲に、勢力過剩説を、シルレル説といふ如くに、此勢力恢復説をスタイルタール、ラザルス説、斯う云つて居る人もある位であります。

いつも、勢力恢復説の論者の引きまゝ話があります。これは、グッツムースの中に書いてあります。これは、聖書の中にあります。使従ヨハネといふ人が、何んだか忘れましたが、何んでも小さい鳥と遊んで居つた。其所へ丁度弓を持つた獵師が出て來まして、驚いて、あなたは有名なヨハネ先生である。貴方の被仰ることは非常に嚴格で一分も迂かりしては居られなへやうに被仰るが、今日は小鳥などと遊んで随分詰らない、と少し輕蔑の意味を以て冷やかした。ヨハネは、君の持つて居る弓は何故さう緩めて居るのかと問ふた。獵師は答

へて。獵師は弓を持つて始終走り廻つて居る商賣だからして、用ひない時には緩めて置かなければならぬ、といふた。さうするとヨハネは、小鳥と遊んで居るのは、それと同じ譯だと、云はれたといふ、斯ういふ、話が殘つて、それが何時も勢力恢復説の人の引合に出されるのである。即ち遊戯といふものは、生活をするに極めて必要な勢力を、平素消費しない爲に、恢復して置く爲に起るものである。約めて云へばさう云ふ事になるのであります。其所で、字から御覽になつても分りますやうに、過剩勢力説と、勢力恢復説とは、極端に反對である。一方は、遊戯といふものは力のあり余りで起ると云ひ、一方は、力が無くなつたから遊戯が出るといふ、非常な反對である、同じ人間の生活でも解釋の立て次第で斯うも違ひが起るものか、一方では、あり余るから遊戯が起る。一方では無いから遊戯が起るといふ、或る方面から見ますと、如何にも二つの極端に隔つて居りますけ

れども、其實、もう少し研究して見ますと、實は同じことを云つて居るのかも知れない。即グロースの引ひて居りまする例に、學生が非常に勉強して飽きが來た、そこで玉突をしたりして、盡きた勢力の恢復を圖るとも云へる、ところが、一方から云へば、机の上で非常に勉強をして居つた爲に自分の體力といふものを發揮することが出來ないから、それを玉突の方に行つて、過剩した勢力を漏らす、斯う過剩勢力説では解釋することが出来る。さういふ風に論じて、グロースは、兩方を違つた説ではないと論じて居るのであります。でもあ、勢力恢復説といふものの問題は、歴史的には勢力過剩説とは全然違つた反對のものになつて居りますけれども、心理的に研究を積んで参りますと、過剩勢力説と勢力恢復説とは、殆んど差異のない學説のやうに思はれます。尤も、此の學説の缺點は、大人の考のみを考へて居る。疲れたから恢復する爲に、遊戯をするといふことは、大人の

見地からのみ研究したのである。で恢復説の論ずる所では、小さい子供の遊戯でありますとか、若くは、動物界に行はれる遊戯といふものは理解し悪い、それを出すと、非常に都合が悪いから出して居ない、さう云ふ事に大なる缺點があるやうであります。

何故此所に、グロースが斯んな事を狭んで、勢力恢復説を論じたかといふと、多くグロース以前に於ては、過剩勢力説に反對する者は、即ち勢力恢復説の見方にあるものの如く、誤解せられて居りましたから、其誤解を避ける爲に、態々、勢力恢復説といふものを、此所に出して、自分は決して勢力恢復説を尊崇する譯ではない、自分が過剩説に反對するのは、別の立場から反對するのであつて、過剩説に反對するが故に、直ぐに此説と、解釋せられては困るといふ爲に、念を押して論じたのであります。

それから再び話を元に戻しまして、グロースの

本能説の方に這入つて參ります。グロースの本能によりて、遊戯が起るといふ説には、二つの根據があるのであります。即ちシルレルスベンサーの説に於て、考へて見ますといふと、力の方が、此遊戯の動力より先きであつて、さうして、遊戯の形の方が、後から出來ると、斯ういふ風に考へられて居る。けれども實際を見ると、實際動物などの遊んで居る所を見ると、それに反對である。例へば、猫が遊んで居る。其猫が何か玉を以て巫山戯て居ります時に、何も猫は、遊んで戯れて居るのは、ジツトして居られてない程、勢力過剩があつて、それが出て來て、玉遊びをするといふのでなくして、猫が遊ぶうとして居る所に玉が與へられた。玉を見た爲に遊びたくなつて、來て遊ぶといふのである。元來の動力の刺戟といふものは、外の原因があつて中から起つて來るのではない、或は犬を連れて、非常に遠道をして歩きます、さうすると犬は疲れて、トボ／＼して勢力が盡きる

さういふ時に何か面白い事でもあると、直ぐ犬は飛び出して遊びに這入る、といふやうな事で、これは、決して、力が先きであつて、形式は後であるといふ議論とは一致して居ない、即ち、疲れて居つても、外に適當なる刺戟さへ與へられれば、其刺戟に應ずるやうに遊ぶものである。殊に小さい動物であるとか、或は子供は、殆んど始終遊んで居つて、遊んで疲れて、さうして寝るといふのが兒童及小さい動物の生活であります、斯ういふ事は決して力が余つて居るから遊ぶといふことの證明にはならない、どうしても刺戟の方が、遊びの形の方より先きであつて、遊ばなければならぬといふ、刺戟を受けさへすれば、力は其刺戟に應じて、集つて出て來るものであつて、力の方が先きではないといふことを云つて居るのであります。

第二の根據は、同じことを別の言葉で、生理的に論じて居るやうな言ひ方でありますが、スベン

サーの勢力過剰といふ説の中には、斯う云ふ事が一つ説明せられて居るのであります。我々の勢力のあり余りで遊戯となるといふことを、生理的に説明しまして、神經の平均といふ事を以て、これを説明して居るのであります。

我々の神經の纖維が、或るエナージーを保つて居りまして、それが始終平均して居ればジツトして居る。或る神經が激しい勢力になつて、或る神經が、それに應じない状態であると、力のあり余つた神經は、平均を保つ爲に、それだけを外部に放出する。斯ういふ風にスベンサーは考へて居る。それに對してグロースは、遊戯といふものは神經の平均に基いて起るのでなくて、遊戯の神經は始終外部から來ると、斯う論じて居るのであります。これはまあ、さう云ふ言葉を使つて居りまして、實例は前申しました。疲れて遊ぶといふ實例が、これの證據になるのであります。

是れで大體、グロースの、人の説を評し、自分

の云はんとする大體を盡くして居ります。其次にグロースの書いて居りますことで、今まで論じて來た所の、遊戯といふものは、生理的、若くは心理的に考へて來た。力のあり餘るにしても、摸倣にしても、本能にしても、又、勢力恢復にしても、

總て遊戯といふものを、生理的若くは心理的に考へて來たのであります、けれども生物の問題といふものは、單に、生理的若くは心理的の解釋のみで分るものでない、即ち生物には、必ず生物學的解釋といふものを必要とする。即ち生物界に多く行はれ、殊に人間に多く行はれて居る、此貴重な遊戯といふものは、單に内部の勢力の溢れから生ずるのであるとか、或は單に無意義な摸倣によつて出來るものであるといふ、解釋では、今日の我々は最早満足が出來ない、もう少し生物其ものの目的の爲に、何か遊戯に直接な關係を有つて居るものを以て解釋したいものである。此所に一つの猫が何かして遊んだ。此猫を、勢力が有り餘つ

て遊んだと解釋した意味には、單に心理的の解釋であつて、猫の一つの生物としての意味といふものは、一つものは一つも其所に這入つて居ない、これが何うにか解釋しなければならぬと思ふのであります。

グロースの考では、即ち自分の探つて居る本能説といふものは、其見地から、非常に都合の宜い解釋を與へるものである。本能といふものは、即ち其生物特有なる一つの、或る生活に直接な、大切な關係を有つて居る働きでありますからして、其本能が、外部へ現はれて遊戯の形を取るといふ即ち生物の生活に非常に必要なる一つの動作になるのであります。即ち遊戯といふものは、單に自己の生活に残るといふやうな事でないに、これに其生物の種族として必要なる關係を現はして來る。斯ういふことを言つた。クッツムスといふ人が、體操の事を論じた中に、我々の遊戯の事を論じて我々の遊戯體操といふものは、單に個人の問題で

はない、其種族の問題でなければならぬ。即ち我々が體操をして、其人の子供の子供が、伶俐になつとか、丈夫になつたとかといふのでは、全體の目的を達した譯ではない、それ以外人間として、種族の大なる目的、種族の發達に關係して來なければ、其目的を充たしたのではないと言つて居ります。グロースの云はんとする所は、即ち其事になるのであります。そこで、グロースの考は、遊戯といふものは、其生物が、後になつて自己の生活をする爲に必要なる準備である。斯ういふ風な解決になると、生物の遊ぶのは、本能が基になつて居るのであるから、後に自己の生活をするに必要なる準備といふ風な考に至るのであります。

此遊戯を以て、生活の眞面目なる、自己若くは生物の種族の生活に、貴重なる、重要なる事と關係あるといふ風に解釋して來ますと、グロースの遊戯に對する貢獻の大なることを知るのであります。遊戯を文學的に心理的に研究した人は澤山あ

りますけれども、今の教育に於て重要な學說として、論ぜらるゝに至つたのは、グロースの本能論以來であります。遊戯を、斯ういふ風に解釋して、生物各自と密接の關係あるものとしまして、初めて現在、我々が考へて居りますやうな、遊戯の意味が、出て來るのであります。我々が始終考へて居ります、フレーベルの遊戯の説といふが如き、フレーベルはグロースの説は知らなかつたのであります。フレーベルの教育上の考へは斯ういふ風になつて居るのであります。グロースの考を以て、フレーベルの學說が形成せられたといふ譯であります。これは餘程面白いこと、思ふのであります。

近代教育に於て、遊戯といふことが、重要な位置を占むに至つたのは、グロースの功と云はなければならぬ。此の點は、遊戯研究史中、グロースが重きをなす、第一の點であります。遊戯といふものが教育に必要なことは、多くの人の認むる



所でありますけれども、其學説を研究し、其基礎を索ぬる時に於ては、どうしてもグロースを源にする必要があるのであります。唯だグロースは、遊戯を餘りに、本能に牽強けて解釋した嫌がある。従つて眞面目なる生活の準備といふ事に、餘り力を入れ過ぎました結果、其遊戯説といふものは、どうも實際的の意味に傾き易くなつたのであります。

グロースの論じて居りますのは、自分は斯ういふ風に論じて來て、本能を以て遊戯の基礎として來たけれども、吳々も茲に斷りして置きたいのは、本能は遊戯の基礎である、けれども決して遊戯の

全體が、本能に依つて現はれるといふのではない、本能無しには遊戯はない、といふ事は自分の強く主張する所であるけれども、しかし、總ての遊戯が皆な本能といふのではない、殊に高等動物の高等なる遊戯に於ては、本能以外色々の要素が其中に這入つて來て、複雑なる遊戯が出來て來るのである。本能即ち遊戯、遊戯即ち本能といふのでは決してない、遊戯の基礎は本能にあると、斯ういふのである。其所で此次に起る問題は、其本能といふものは果してどんなものであるか、これを研究する必要が起つて來るのでありますが、此處で止めて置きます。

# ○全國幼稚園關係者大會研究問題及話題

## △大會ニ對スル文部省諮問案

- 一、幼稚園保姆養成ノ適當ナル方法
- 二、幼稚園ト小學校トノ聯絡ニ關スル適切ナル方法

## △大會ニ於ケル研究問題

- 一、幼稚園保育ヲ滿三歳ヨリ始ムルト滿四歳ヨリ始ムルトノ適否
- 二、幼稚園ニ於テ幼兒ノ身體發達ニ有効ナル手段
- 三、幼稚園各組ニ於ケル各保育期ニ割リ當ツル手技手工ノ種類

## △大會ニ於ケル談話主題

- 一、幼兒躰ケ上ノ希望
- 二、保育上陥リ易シト認ムル缺點
- 三、幼稚園ニ必要ナル衛生設備
- 四、幼稚園ト家庭トノ聯絡方法

此ノ他來會者ノ出題ハ六月二十日マデニ東京女子高等師範學校附屬幼稚園内大會準備委員宛ニ御報告相成リタシ

## △調査問題

左ノ諸項ニ就キ實際ノ狀況ヲ調査シ大會ニ於テ發表シ研究ヲ

重ネタキニツキ六月二十日マデニ前記準備委員宛各園ヨリ報告願ヒ度ク尙此際ヲ利用シテ談話材料ヲ集メタキニ就キ來會者諸君ノ最良シト思ハル、話二三ヲ成ルベク詳ニ記シ前記委員宛併セテ送附セラレンコトヲ希望ス

- 一、各季節ニ於ケル一日ノ幼兒在園時間
- 二、幼稚園ニ於テ保姆一人ノ受持テル幼兒數

# ○全國幼稚園關係者大會出席者注意

## 會出席者注意

- 一、大會ハ既報ノ如ク大正四年八月三日、四日、五日ノ三日間之レヲ開ケ
- 一、未ダ出席ノ申込ナキ方ハ五月末日マデニ東京女子高等師範學校附屬幼稚園内全國幼稚園關係者大會準備委員宛其ノ住所職業氏名ヲ報告セラレタシ
- 一、宿舍ノ準備ヲ要求セラル、方ハ七月五日マデニ前記委員宛ニテ御照會アリタシ
- 一、八月三日午前九時マデニ會場（東京市本郷區湯島三丁目東京女子高等師範學校講堂）ニ於テ學校又ハ幼稚園名ヲ肩書シタル名刺ト引替ニ印刷物ヲ受取ラレタシ

# ○本會夏期講習會

フレーベル會幼兒教育夏期講習會は八月、全國幼稚園關係者大會に引つゞき、東京女子高等師範學校内に於て開催の筈、尙詳細は次號に

ビュッコウ  
夫人の

## フレーベル追懷錄

S K 生 譯

### 五、リーベンスタインに於ける一八五〇年の夏

一八五〇年の六月にリーベンスタインに戻つて行つて私はフレーベルがマリエンタルの學校に落附きを得て居ること、彼の研究生の内にデーステルウエヒの娘が居ることを知りました、この年の春既に彼は移轉に就て私に告げたのであります、彼は彼の研究生の手によつて作られた花や花環を以て飾られたる彼が眞の幸福と希望とを感じ得る彼の新しき家の悦びを私に書き送つて寄越したのであります。

けれども凡そ地上には影を伴はぬ光はないのであります、而して茲にも其影はあつたのであります。フレーベルはハンブルグ婦人協會から招聘を受けて過去冬の數月間を同市に於て費し彼の教育

法に就て講演を與へました。ミッテンドルフは例の如く彼のために道均しを前にして置いたのであります、即ミッテンドルフのものした數篇の論文は其地に目覺しい興味を呼び覺しました、それでフレーベルは多くの人々から熱誠溢るゝ歓迎を受けました、私に宛てた彼の手紙はこの歓迎を認め彼の聽講者の熱心を激賞しました、けれども茲に一つ彼を思ひ煩はせ彼に苦痛を感じさせたことがあります、それは時代が女子の爲めに要求する進歩に達すべき道を案出する女性に對する高等學校の建設でありました、而してこれはフレーベルが同じ目的のために選んだ彼の正當と信ずる道とは異なるものであります。

丁度その頃二十四五年間といふものは婦人解放の思想が多くの女子の心を極度に刺戟し善良なるものをも驅つて往々にして誤れる方向へと赴かしました、勿論彼等はこれがために所謂「解放せられたる女」の不都合と邪曲とを罪として犯してゐるものではありません。善良優秀なる我國の婦人がこれまで與へられてゐた從屬的地位から進歩しやうとして深い憧憬を感じてゐること及び彼等が現代の運動を解放のために悦ぶべきものとして迎へて居るといふことは事實であります。

けれども當時は未だその目的に對する必須の手段が明かに現れては居りませんでした、多數の婦人の實際の進歩の状態をも顧みずに徒らに多くの事柄が一時に要求せられました、外面的に全然男性と同等になりたいといふ要求があらゆる方面から爲されました、神によつて明かに指定せられた性の相違が各に對して異つた宿命を開展して行くといふ事實は此際忘れ去られて居るのでありま

す、而かも男子と同じき權利義務天職なぞに身心を係はさずともたゞ此の宿命の義務の於高き充實は彼等を男子と同等の地位に持ち來たすものであります。自己平衡と自制とを缺く外的自己依存は破滅に赴く外はありません。

それから又智識的習慣の必須的基礎を考へずに單なる智識の増加に依つて婦人の不充分なる理解力を埋合せしやうとする計畫もありましたがこれはたゞ「虚偽の智識」を齎すのみであつて偶々婦人の至寶なる獨創性と無邪氣とを害ふものであります。哲學的研究さへ高等學校の學課となつてゐるのであります、これが若し特別な方法を以て特別な人々に與へらるゝとしてもそれは智的成熟の年齢の人々にのみ適し事實信仰のみより他有して居らぬ若き人々には適さぬのであります。

婦人問題の解決が未だ極く幼稚であつた頃解決に到達すべき正しき道が智力、精力、熱心、實際的才能に於て優つて居る有能なる當事者（フレイ

ベルの甥なるカール、フレーベル教授、彼の妻並びに婦人協會の會員）によつて速かに發見されなかつたといふことは認め易い事實であります。

種々な方面に行はれて居る説を明かにし形容するには更に多くの経験を必要としました、而してこれは今も尙要求せられて居るのであります、何故ならば現今に於ては婦人問題はすべての新しきもの、進展に向つて要求せらるゝ所の経験によつてのみ決定せらるゝからであります、而してこの問題の入口に於て絶えず壓迫を加へる外的の必要が婦人の仕事に於ける熟練及びこの問題の物質的方面に先づその注意を向けさせたのであります學校は今尙時代の要求に應ずべく女子の改善に腐心して居りますが未だに思ふやうな結果が得られません、乃で試みと経験とが更に必要となつて來るのであります、確かに多くの善き事が既に爲されました多くの善き一步が進められました、けれども亦同時に多くの影が投げ出されました、而して

それらの中には——常に同意すべきことばかりを主張しなかつた眞實主義もありました——又無垢なる婦人性ウイメンフットを害ふ所の些末なる収入の堆積もありました。

若しも女性が人類進展の目下の段階に於てその内的資性によつてその適當な位置にまで高められんとするならば前進的なる各一步によつてすべての進歩に避け難い偏見が漸次征服せられねばなりません。けれどもこれに對しての必要條件の一はフレーベルの理想に基いて人類の教化を行ふといふことであり、女性をして母親として將又教師としてこの理想を實行せしめることでもあります。

フレーベルはそれ故に彼の唱ふる所の母學問の第一原理が眞理と天分とに従つて女性の向上に基礎を横へねばならぬといふことを深く信ずるの結果この偏見的な經驗に好意を有するものではありませんでした。

去年の秋彼は既に私にハンブルグの高等學校問題  
は彼の努力を無効にするものであるといつて不  
同意の旨を話しました、それ故今年私がリーベン  
スタインに着くと私達の會話の主題は先づこのこ  
とから始りました。

私がフレーベルに時代はたゞ何となく婦人の高  
等教育を要求したのであるといふこと及び第一に  
爲された計畫か望み通りに果されないとしてもそ  
れは更に善きものゝために更に善き目的のために  
道を拓くものであると思ひますと話すにフレーベ  
ルは激してもどかしげに次の如く言ひました。

「けれども外部から鑄造されセメント塗りに作り  
上げられた這麼智識からとんないゝ事が出て來ま  
せうぞ、まつたく智識でも何でもありません、  
何故ならばそれは雜色の補布パッチのやうに眞實の人間  
性を隠蔽し且つ之を害ふものであります。内心か  
ら生じ來つたのではないすべてのもの、獨創的の感  
情思想にあらざるすべてのもの、又は尠くともそ

れを喚び覺ますだけの力のあるものでないかぎり  
は人間の個性を發揮せしめずして反つて之を壓迫  
し畸形にします、而して自然は戯カクイケーチユア畫となつて了  
ふのであります。吾人は兒童等に於てさへも人間  
性を貨幣のやうに鑄造することを向後決して歇め  
ないでありますか。天なる父、神によつて植え  
られた生の法則に従つて成長發達し神の像となる  
ことを心掛けずして人間性に外國の像や外國の傳  
書を過重に積み込むことを歇めないでありますか。  
數百年間我々獨逸人は外國々民を摸倣するこ  
とによつて是等の足械あしかせを得てしまひました、而し  
てこの足械は人々の又は個人の最深の資性をして  
身動きをなさしめず自由に開展することを得せし  
めないものであります。けれども吾々はそれがた  
めに決して各人の心情に芽むべき生命の木と各人  
の心意に芽むべき智識の木とを認めてその美しき  
成長に留意しこの世代に於て根を張り次の世代に  
於て再び芽むべく新鮮にして健かなる花を開き熟

したる果實を結ぶことを許さないものでありませうか。吾々はそれ自身の觀察、經驗、思量によつて成熟せしめられた心が歴史の過程に於て啓示によつて開展され裁可された普遍的眞理を覆倒し得るであらうといふ考へを排けないものでありませうか。苟くも眞理である所のものが嘗て覆倒せしめられたことがありませうか。この個人的心意がその独自の力に於て普遍的心意以外に他の眞理を見出すことが出来ませうか。間違とせられたものが進展の過程に於て常に正しき道に向け替へられるといふやうなことがありはしないでせうか、神の神意は常に再びこの正しき道に連れ戻り而してこの道を照らす所の案内者を送らないでせうか。「けれども私は少年が青年に於て見る如くに緊衣を着たやうに禮服や新時代には餘りに狹隘になつてしまつた昔の流行物を着たやうに羽搔はがいでら縮ぢぢにされないやうに彼等を防護してやります。私はすべて人間の心靈はその個性から自分で成長してゆくも

のであるといふことを示すでありませう。けれども母親として、教師として私の理想を實行に移して下さる婦人達を措いて私は何處に私の同盟者、援助者を得ることが出来ませうぞ。たゞ智的、活動的な婦人達のみがこの事を爲し得るのであつて又爲すでありませう。けれども準備せられざる土地には根付かない死智識クラフネの底荷を以て此等が積まねなければならぬとしたならば若しくは彼等の独自の生命の泉がそれのために阻歇せらるゝとしたならば彼等は私の進み行く方に従いて來ないでありませうし彼等の性の新しき課題に對する時代の要求をも理解しないでありませう、而してたゞ空しき淺薄の中に満足を求むるでありませう。

「子供に於ける天性を理解しやうと學ぶこと、これは人の天性及び人類の天性を理解することではありますまいか。而してこの理解の内に他のすべてのもゝ、理解の幾部分かゝ含まれてはゐないでせうか。女子は彼等の内に於て高尙たかたかなるもの於理解

的なるものを學び之を彼等の内に取り込むことは出来ません。それ故この事は尠くとも最初でなければならぬ筈であります、而して少年時代の愛が心の内に喚び覺まされなければなりません、(而して廣い意味に於てこれは人類の愛であります)、それ故新しい自由な人々は正しい注視によつて育て上げることが出来ます。

何よりも先つ未來の國民の福利のために必要な智識を分配すべきであるのに——即ち人の心意は既にその幼芽に於て何等の係りなく、内に何等の根ざしのない想念の重荷を負はされることによつて痛められて居るのであります——我々は愚にも尙この智識を更に多くすることにのみ腐心して居りました。

「而して是等の高等學校は單なる理解の修養の食傷と彼等が哲學と名ける所の淺薄なる言葉の詰込みとを以て他の何事をか成し得ませうぞ、彼等は私のためにすべてを破壊します、而かも斯るもの

を支ふべく私は私の手を働かすでありませうか、それは不可能であります。私は同意することが出来ません決してしないでありませう。私は神が私のために指示してくれた私の道を知つてゐます而して假令全世界が私に背くとも私はその中に止まつて居らねばなりません。」

フレーベルは大なる感激を以て彼の此の深い確信を言ひ現しました。私は大部分彼にまつたく同情を有して居りました、私は答へました——

「私は單なる智識の堆積によつてのみ現下の教育組織の惡弊を矯正し得ないといふあなたの意見を分け前するものであります。人間の獨創性は救はれねばなりません、各個人の眞實の内部の自己は少くとも惠まれたる强健な心靈が凡庸の印象を以て印付けられないために、又彼等が人々に伍して慣習的な生活を爲し得ぬによつて彼等自身を苦悶の中に疲憊させないために自由にのびやかに現れることが許されねばなりません。若しも誰でも智



識ある人々からさへも凡俗の淺薄によつて誤解され異端者と烙印せらるゝことなしに彼の最善の最も個的な自己を現すことが出来ないといふ此の苦しみを知るならばその人は人類の獨創力を保存し開展することに於てあなたの同盟者となるでありませう。

「自己の經驗、事物の智識を基として極く幼い少年から創造及び産出によつて教育をなさんとするあなたの方法はこの目的のためには第一の又根本的の條件の one であります。私は充分確信しました、而してそれがため私は主にこの仕事に助力を與へるべく餘儀なくせらるゝでせう。少くともそのことをして如何に吾々は教育すべきかと尋ねられしめよ、小歇なく達せらるべき結果を繰返し推量することを止めて。

女子の天性は確かに男子のそれよりも折善なほくその獨創性と自發性との極印を止めて居ります、女子はこれを大部分女子の上に無理に加へられた單

なる智識の男子に比して尠かつたといふことに負ふのであります。而してこれは尠くとも無智の賜物（女性はこれを享受して居ります）でありますけれども女子の心靈の最も獨創的なる要素は母の愛情であります、人類は發達の如何なる階段に在つても亦如何に廢頽の期に在つても至聖なる自然の極印を詐ることは出来ません。人間の愛の内最も強きものなる此の愛はあなたの教育事業の勝利を誓ひます、何故ならばそれはそれを充分認めらるゝまで如何に長く待たうとも熱心にあなたの思想を理解し適用するでありませう。

「けれどもあなたは何故あなた自身も經驗は最善の師であることを認めて居りながらこの高等學校の如き機關の設立に反對せらるゝのでありますか。そのものをして自由に進行させたらばいゝではありませんか、さうすればその設立者の中の譯の分つた人が多くの事を變更したり改良したりするでせう、而して漸々正しい道を發見するに至る

でありませう。幼稚園の兒童が成長するまで私達は自分の足の上に立つて神から授かつた天分を盡すことを知つてゐる獨創的に成長した性格を有する人を得ることは出来ないでありませう。現今の多くの人は古い教育法のみを理解して居ります、而して引繩と獲得せられたる智識とを要求して居ります。この理由のために未だ獨創的な人は居りませんので私達は彼等をして自由に時代の衝動に従はしめなければなりません。彼等は有用にして且つ健全なるものを澤山産出するでありませう、而して時に取つての必要が娛樂を充分に供給します。私達は私達と共に未來の人、現在の人及び過去の人と一緒に居ることが必要ではありませんまいか、さうすれば時の結合といふことが完ふせられます、あなたは時の結合を認めるといふことを正しい教育及び見解の統一の第一條件として居るではありませんか。

「欠點だらけな貧しい智識を持つて居る女子を私

達は私達の道連れとしないでありませう、彼等は彼等の道を行かなければなりません。彼等は時代の大きな華々しい事件に外的に惹付られるかも知れませんが兒童の爲めや彼等が舞臺を去つて後纒かにその功勞を認められるやうな謙讓な目的の爲めには働かないでありませう。あなたは自ら人間には自分々々の——而して異つた——解くべき問題があると云ひました。現今の運動は女子をあなたが彼等をして赴かしめたいと思つてゐる方向と違ふ方向へ追ひ遣つて居ります。彼等は彼等の家庭生活の狹隘から彼等自身を自由にしやうと努力して居ります、彼等はあなたの要求する教育上の役目は彼等を育兒室の於こゝ狹き限内に閉ぢ込めるものであると考へて居ます、私はこの事に就てこの數月間にある經驗を得ました。人類の教育家として女子の使命に對する女子の普遍的熱情といふものは現代に於ては得られません。多くの女子はその性にまで開かれたる更に高級な獨立の地位を利

用するでありませう、而してその勢力を持つこと及び勢力のあることを感じて喜ぶでありませう、而して未來の人々のために一身を捧げて盡すなぞといふことはしないでありませう。

「これまでの女子の教育なり地位なりが殆ど一手に愚劣及び淺薄に馴らされて來たか若しくは重荷を負はせられる動物のやうに勞動を強ひられて來て居るかするので女子に高尚な見地から事物を觀察するやうに要求することは不可能であります。

深く激しく惱んだ者、個人的安易に打勝ち之を犠牲にすべく生の經驗の重い壓迫の下に習練し來つた者のみが未來のために働くやうな職務を試みるでありませう。意識的な目的を懷いて生活し働いて行く人は極く尠いものであります。けれども母の愛情の本能は尋常の女子の群の中の多くの者をしてあなたに與せしめ彼等自身の子供のためにあなたの事業の進行を冀ふやうにさせるでありませう。私達は必要な外的動作の支持を彼等に俟つ

ことは出來ませんが私達の目的の精神的意義の深き理解を期待することは出來ません。」

「それはさうかも知れませんが」とフレーベルが言ひました。「世界に起るすべてのことは明瞭な思考の結果であるよりは無意識的な衝動の結果である場合が遙かに多いのであります、けれども時は來ました、人性の木の上に荅の開くべき時——生命の新しき階段——が來ました、——これからは絶えて休止することのない、人間の智と靈とを異つた程度に於て喚び覺ます所の新しい刺戟力が生じて來ます、信仰の如く心情に於てか觀察の如く心意に於てかはたゞそれが覺めて居さへするならば關する所ではありません。けれどもあなたは兒童の正しい養育によつて人間生活を一新し潑刺たらしめやうとする此の仕事を行つて行かれるのでありませうか」

「勿論私は一生この事業を繼續して行きます」と私は答へました。「私は屢々人間の天才が多くの子

童の心靈並びに青年の心靈の中で死力を盡して模索し之れが此の世に齎した神意を外的に現さうとしその理想を行爲に於て現さんとし而してその開發せられざる醗酵的獨創的の力を引出さうとするのが見えるやうな氣がします、それはその指揮者を得んとしてその手を延しますが無効でありませんが無効であります、地上的の重量がそれを引擦り下すのであります、生れ附いてからその上に置かれた足械がその飛行を妨害し拘束するのであります。而して周圍の雰圍氣の汚埃がそれを唆かしてゐた光の形を隱蔽します。次に漸々と娛樂の希望が起つて來ます、それは高級なる何物かを要求します而してそれは感覺をその仕拂ひの中に取ります。而して天才は通常の人に於てはその影を失つてしまひます。それでなければそれ自身の理想から離れ源泉たる神から背いだ魔鬼となるのであります。

「それ故に理想のためにそれ自身を捧げるすべての人間の心靈はこれ迄それ自身の要求と希望とによりて多數者から命令さるゝ運命を持つて居る、世界の除け者たる少數者の内に於てのみ模索されました。多數の人々が底荷ゴットとしてこの世に必要であること並びにすべての教養を持つてゐるにも拘らず決して消滅しないであらうといふことが事實であると假定したならば、進歩はたゞ斯くして認知されることが出來ます、即ち天才によつて刺戟せらるゝ人々、人類の於高尚よちなる心靈が多數者となりその要求と希望とによつて生活を支配する時が來なければなりません。

「而して若しも目下除け者にされて居る人達が最早ベールリアー（印度の最下級民）の如く殉教者の如く生活する必要がなくなり多數者の卑陋と驕傲とに従ふべく餘儀なくせらるゝ必要がなくなる時が速かに到着したならば完全な變態が結果せらるゝのでありませう。高級なる者が下級なるものを

支配し吸収する場合若しくは尠くともそれを變形せしめる場合に必要な法則は智的世界に於て必然的にこの結果を生ずるでありませう。あなたの教育法を實行することから私は直ちに祖先の誤謬及び罪過によつて一致共同にまで縛られた人々の反對的の勢力と均重を保つべくそれから又各人の一般的並びに個人的の目的を達すべく必要な勞役に於ける無數の迂回せる間接的方法から免れしむべく兒童の心靈に獨創力の覺醒と開展とを期待します。

「若しもこの目的を充分に達すべく數百年を要するならば又この目的を完全に遂行すべく甚だ多くの他の事の協力が更に必要であるとするならばこの目的はすべての努力に價する偉大にして美しきものであります。若しも私達が人間界に於ける無數の聖なる火花を覺醒することに於て成功するならば單獨なる火花は拔んで、輝くことを歇めるでありません。

「あなたの教育思想が分れば分る程私は女子が人間社會の發展の上に重要な影響を働くといふことを知るのであります。若しも彼等がこれまで極く僅かの女子のみが爲し得た所の兒童の資性を意識的に理解してこれを應用する教育によつて家族全體の爲めにする母親の科學によつて用意せらるゝならば尠くとも普遍的徳性の基礎が置かれるでありません。幼稚園及びあなたの方法に於て幼稚園に従ふものは外的及び内的の眼を開くことによつて獨創的思考のために道を準備することによつて而して少年時代に於て既に自由に修練せられたる力と連續的活動の習慣とにより勞働の嫌忌に打勝つことによつてすべてのものに對する智識の要素を供給するが故に其處には誰にでも達せらるべき教養の或る程度がある筈であります、而して同時に於<sup>よ</sup>高き天分を有する人のためには彼等自身を更に深く彼等の力量と技能とによつて教養し於高き平面にまで昇るべき道が開かれてあります。こ

れより以上のことは天分の相違によつて達せられることは出来ません、又一般民衆の普遍的教養をこれより以上に合理的に要求することも出来ません、これによつて女子が自分達を更に一般的に教化するための基礎が置かれるでありませう、而してこの規則の例外は普通問題よりも於高級なる問題を理解することに於て役立ち得るのであります。

彼等自身の思想と觀察の仕方が女子の智力にまで許され可能ならしめられた時に於てのみそれはそれ自身の個性を充分に現すことが出来ます、而して女流天才が如何なることを完成し得るかといふことを眞實に示すことが出来ます。この決勝點は尙遙か彼方に横つて居ります、而して大なる妨害がその到達を困難ならしめるであります、けれども少しでも進んでゐさへするならばそれは達せられなければならぬ筈であります。

私達はこの問題に就て更に深入りして論議しました、而して私達が大體に於て一致して居るといふことを知りました、フレーベルは言ひました、

「さうです、女子は私の自然の同盟者です、而して彼等は私を援助すべきであります、何故ならば私は彼等を彼等の内的及び外的の足枷から免れるさせる所のもの、彼等の後見を終らしめ、兒童よりも更に低く見つもられてゐる彼等の尊嚴を回復させるものを彼等にまで齎したからであります。けれども私と一緒に働かうとする人は誰でも多くの事柄を引受けねばなりません、嘲笑と非難とを忍ばねばなりません、嘲笑と非難をして焼け盡されしめるか粉々に破壊されしめなければなりません。あなたはそれが出来ませうか」

「出来るだらうと信じます。けれども若しも私が焼き盡されることになつたら私はこの目的のためにもう働くことは出来ません、」と私は笑ひながら言ひました。私はその頃個人的の目的のために罵る所のもの等に對してフレーベルの思想と方法とを防護しましたから私を待つてゐる所の道德的葬式の火葬堆に就ては更に知る所がありませんでした、若し知つてゐたならば私は笑はれなかつたかも知れません。

# 兒 童 研 究

社會の改善も、人類の向上も、文明の進歩も、國家の發展も、詮じつむれば、ただ善良の兒童を得るにありと言ふことになる。兒童を愛する國は興り、兒童を顧みざる國は亡ぶ、これは千古萬古變ることなき箴言である。兒童の研究は、ひとり教育家や、醫家に一任して置くべきものではない。世の父兄自ら研究すべき筈のものである。兒童の研究は即ち我を愛し、家を愛し、國を愛し、人類を愛することになる、兒童のために最善を謀らざる家庭は、決して幸福を望むことは出來ぬ、我儕は何人も兒童の研究に興味を持たれんことを切に希望してやまないのである。

○會費半箇年分金九十錢 同一箇年分一圓八十錢○兒童研究は毎月一回二十五日發行○會員には無代頒布○見本金十五錢

東京市本郷區千駄木町五十番地

日 本 兒 童 學 會



# の一本日 年幼本日

## 報畫の供子き白面くし美

文學士 倉橋惣三先生監修  
繪畫は 六畫伯の執筆

◎可愛いお子様を

美しく善く育てたいと思はれるお母様方の爲めに深く注意と多くの苦心を重ねて理想的に編輯せられ今度新たに生れたのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様に

お興へになつて玩具やお菓子よりも喜ばれ面白がつて楽しむ間に感情を高尙にし美しき習慣を養ひ清き心の糧となるのはこの日本幼年です

◎可愛いお子様が

幼稚園から尋常小學でお習ひになつたことを喜び笑ひ興する間に知らず識らず復習し補習するのはこの日本幼年です

◎最後に お母様に

御注意を願ふのは日本幼年は文學士倉橋惣三先生の監修で六畫伯の彩筆になり紙數も多く印刷も鮮明で従來有りふれたものに全然超越して居ることです

定價 第一冊 一十銭  
前金 半年前金 六十三銭  
半年前金 一四十二銭  
發行所 東京 社  
東京市京橋區鍛冶橋外 振替東京 二二八番



フレイベル會規則 (抄)

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保

育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ獻出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノ

ハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演說、談話、保育參考品

幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演

說、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレイベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組

織ス

但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

本會々長

中川謙二郎

本會幹事

(イロハ順)

井村くに 池田トヨ 芳賀晴  
坂内ミツ 和田實 和田くら  
倉橋惣三 安井哲 福田ふく  
小向きみ 雨森劍 坂井ふで

本會評議員 (イロハ順)

乙竹岩造氏 吉田熊次氏 田中ふさ氏  
野口幽香氏 横山榮次氏 藤井利馨氏  
下田次郎氏 日田權一氏

本會客員 (イロハ順)

伊澤脩二氏 巖谷季雄氏 岩谷英太郎氏  
波多野貞之助氏 細川潤次郎氏 本間辰藏氏  
戸野周次郎氏 大瀬甚太郎氏 奥好義氏  
尾田信忠氏 大久保介壽氏 嘉納治五郎氏  
唐澤光徳氏 谷本富氏 高島平三郎氏  
棚橋源太郎氏 多田房之輔氏 田中敬一氏  
中島力造氏 中村五六氏 野尻精一氏  
野上俊夫氏 久留島武彦氏 松本亦太郎氏  
松本孝次郎氏 馬上孝太郎氏 富士川游氏  
小西信八氏 淺岡一氏 雀部顯宜氏  
櫻井光華氏 三島通良氏 篠田利英氏  
東基吉氏 瀬川昌耆氏 尺秀三郎氏  
菅原教造氏

# 幼 稚 園 用 品

## 家 庭 用 玩 具

東 京 九 段

### フ レ ー ル 館

新築後工場も整頓致し、店も精々片付き申候間、益々業務に奮勵仕り、物品を精選し、格價を最も低廉に、業務に應じ可申候に、需倍の舊御愛顧を願上候。

## 日本玩具研究會 會員募集

會費は一ヶ月五拾錢にて研究した面白い御爲めになるよい玩具が毎月得られます(申込次第規則書送る)

### 本會評議員

巖谷 小波 甲賀 藤子 吉田 熊次  
 多田房之助 野口 ゆか 倉橋 惣三  
 久留島武彦 山脇 春樹 町田 則文  
 小西 信八 三土 忠造 三輪田 元道  
 莊司市太郎 森村 開作

### 本會幹事

稻垣 知剛 和田 實 河野 清丸  
 高市 次郎 曾根松太郎 武藤 忠義  
 野村 忠寬 松田 茂 藤 五代策  
 岸邊 福雄 御園生金太郎

申込所 東京九段 日本玩具研究會

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回五日發行)  
 婦人子ども 第十五卷第五號  
 大正四年五月十日發行  
 大正四年五月十日納本濟

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場